



杭州2022年第19届亚运会
The 19th Asian Games Hangzhou 2022

山と水をかたどる富陽水上運動センター

杭州アジア競技大会開幕2日目の9月24日、日本勢メダル1号はローイングボート女子舵手なしフォアでの銀メダルでした。このボート競技が行われた富陽水上運動センターは杭州市富陽区にあり、幅が40~120m、長さが550mというH型に似た縦長の建物です。屋上には2.4万㎡もの屋上庭園が広がり、水墨画家黄公望が晩年杭州富陽県に移住して描いた傑作「富春山居図」をモチーフに、山と水をかたどったこの建築は周囲の風景と調和し、選手たちにも好評でした。

特集：待ちに待った対面交流が再開

寄稿 浙江・中国無形文化遺産博覧会に参加 静岡県工芸家協会副会長

◎駐在生活から見える「季節の色“カラー”」 静岡県上海事務所長

◎花を巡る旅情 <<温州の椿（つばき）>>

◎三国志の英雄達 ゆかりの地・孫権と龍門古鎮

在浙江・静岡県関係企業の新成長サポート交流会

10月13日、杭州で「在浙江・静岡県関係企業の新成長サポート交流会」（静岡県・浙江省経済交流促進機構主催）が行われました。浙江省に進出している日系企業・静岡県関係企業の新たな事業成長に向けて、浙江省関係部門から最新の外資政策などを紹介してもらいました。メインの杭州会場には日系企業、経済に関連する行政機関や大学機関、日系企業等の企業関係者が出席、静岡会場からはオンラインで参加しました。



サポート交流会では、浙江省の各行政関連機関より、「浙江省の外資企業革新発展に対する支援関連政策」「未来工場智能工場・デジタル化製造現場の育成認定ポイント」「省エネ・二酸化炭素排出削減関連政策」「最新の優遇税制政策」についての説明があり、中国での企業経営に対して、参考にしてもらうことができました。また、今注目されている産・学・研（企業・大学・研究機関）による産業連携の事案として、電装（杭州）有限公司と日華化学（中国）有限公司の事例紹介があり、出席者は熱心に聞き入っていました。

双方代表挨拶要旨

静岡県産業経済部長代理 田中伸弘

昨年、静岡県と浙江省は友好提携40周年を迎えました。この間、多くの企業の皆様方や関係者が両県省を訪れ、経済をはじめ様々な分野で交流を深めてまいりました。

両県省の交流が深まる中、本県企業の浙江省への進出も進み、県の調査によると、2022年4月1日現在、中国へ進出している県内企業の事業所数は、155社282事業所で、浙江省へは、中国の省・直轄市の中で、上海市、広東省、江蘇省に次いで4番目に多い進出数であります。県駐在員事務所、促進機構浙江省委員会などと連携し、県内企業の現地法人の要望などを地方政府に届けるなど、引続き側面的な支援を行ってまいります。

浙江省商務庁副庁長 石琪琪

9月に日本を訪問し、静岡県の企業関係者とも交流を行いました。美しい日本の風光の元、企業関係者との交流は大変実りの多いものでした。現在、中国政府は外資企業の誘致に力を入れております。浙江省では今年1～8月の日本の外資は前期から53.5%増加しています。

今後も浙江省にある外資企業へのサービス強化のため、持続的な優遇政策環境の提供、迅速なコミュニケーションの場の提供、より良い経営環境の提供の3点を重点的に実施します。日本企業にも事業に専念してもらえよう、外資企業に対して一流のビジネス環境を整えていきます。

浙江省の豆記者が静岡にやってきた

7月6日から15日、7月21日から26日の2陣に分かれて、浙江省メディア中国藍メディアが組織した子ども記者団（豆記者）が日本、静岡県にやってきました。コロナ渦の間は海外渡航が禁止されていましたが、今回再び浙江省の9才から13才の小中学生で編成された豆記者訪問団計47名は多種多彩な取材活動を通じて、日本、静岡県に対する国際理解を深めました。

豆記者一行は島田で茶道、藤枝でサッカー、静岡で浴衣を着て盆踊り、富士宮で弓道等地域の人々との交流や日本の会社見学など様々な体験をしました。また川勝県知事も訪問しました。川勝県知事は豆記者のインタビューに答え、「農業や医学、防災、スポーツ、芸術あらゆる分野の交流の可能性を皆さんの若い人たちに開いてほしい、それぞれの個性を大切に、違いを楽しみながら平和の地域を作って、皆さんも平和の礎となる友達をたくさん作って、平和の担い手になってほしい」と豆記者に対して期待を寄せました。



川勝県知事と記念撮影

浙江省、輸出商品（大阪）交易会を開催

9月13日から15日の3日間にわたって、インデックス大阪で「2023大阪国際ライフスタイルショー/浙江省輸出商品（大阪）交易会」（浙江省商務庁主催）が開催されました。4年ぶりの約150社が出展してのリアル開催となりました。



日本国内はもちろん、浙江省の企業をはじめ、アジアの国・地域から、生活雑貨・ファッション雑貨・ファッション・スポーツ&アウトドア、ペットグッズ等、多種多様なライフスタイルに関する商品が展示されました。

また、期間中には貿易や最新技術などの国際ビジネスに関するセミナーが開かれ、本県も経済産業部商工業局長が本県の企業誘致政策を紹介する等、盛況のうちに幕を閉じました。

寄稿：第15回浙江・中国無形文化遺産博覧会に参加して

7月6日から9日にかけて、浙江省紹興市で『第15回浙江・中国無形文化遺産博覧会』が行われました。静岡県工芸家協会の工芸家10名が浙江省無形文化遺産保護協会の招聘により参加し、静岡県工芸家協会の稲垣有里副会長にご寄稿いただきました。



日中民間工芸家友好促進会(株)代表取締役の劉建新先生のお声がけを頂き、4日から11日までの8日間の旅となりました。

中国へ初めていくメンバーも多く、期待と緊張の中、展覧会は開幕しました。浙江省はどこに行っても活気があり、展覧会場は連日盛況でした。

お客様や出店者の方々とはWeChatを使ってコミュニケーションをとることが出来、時代の変化と中国の現場を知ることができました。より深い専門の情報交換は通訳の方を通じ、陶芸、染織、漆、コンテンポラリージュエリーなどそれぞれの分野で個々に繋がりを持つこともできました。

大変だったこともありました。渡航前、ビザを取得するのが大変困難でした。招聘状、招聘先や滞在先の詳細な情報がオンライン申請の際に必要で、受諾されたら東京の中国ビザ申請センターへ出向いて指紋などを採取、パスポートを預け申請、その4日後に同施設で受け渡しでした。皆で協力しながら行ったのでなんとか乗り切れましたが、とても時間もかかりました。また、現地でクレジットカードが全く使えない(VISA、master、その他)のも誤算でした。使えるのは中国系のカードかほぼ全てがWechatPay(現在は普通の外国人には作れない)でした。現金はあまり使わなくなっているそうです。



帰国日の前日には漆芸の人間国宝の柏屏黄才良先生の美術館「黄才良泥金彩漆工作室」を見学、黄才良氏自ら館内を説明してください、漆芸の伝統技法や中国における伝統工芸の伝承のあり方や教育現場となる実技室を視察しました。同日午後には「上林湖磁苑越窑青磁工作坊」孫威氏の工房で2000年の歴史のある浙江省の青磁について見学、工房兼工場とミュージアムを訪れ交流を深めました。両施設ともその規模の大きさと歴史の深さに感銘を受けました。

末尾となりましたが、この貴重な機会を下さった劉建新先生と同行して下さった平野一恵様に心から感謝申し上げます。今回、浙江省との繋がりを持てたことは静岡県工芸家協会としても個人としても今後の活動の大きな指針となりました。これからも工芸文化の交流を通して静岡県と浙江省の人々をつなぐ活動を続けていきたいと思っております。

浙江省を疾走する『高铁』の今

浙江省は、2025年までに省都・杭州市と省内各市を結び交通網を整備し、省内どこへ行くにも1時間で行ける「**一時間交通圏**」を実現することを目標としています。省内に高速鉄道網12路線を整備、一層の経済発展を目指します。今回は前回紹介の路線とは別の3路線を紹介します。



④寧杭高速鉄路

区間 南京南駅—杭州東駅

全長 256km（うち浙江省内 104km）

開通 2013年7月1日

江蘇省南京と浙江省杭州を結ぶ高速鉄道で、運行時速300km、両省都を最速70分で繋ぎます。トンネルの多い路線で、全部で16か所、一番長いのは湖州の5.31km、全トンネルを繋ぐと26.9kmになります。トンネル口には時速300km以上の車両が出入する時の騒音を防ぐ技術が使われました。



⑤杭甬高速鉄路

区間 杭州東駅—寧波駅

全長 150km（省内150km）

開通 2013年7月1日

この鉄路自体は浙江省内の路線ですが、中国鉄道部の重点計画「四縦四横」のうち、北京南、瀋陽、武漢、合肥、上海虹橋、福州等を結ぶ重要な構成部分です。



⑥杭長高速鉄路

区間 杭州東駅—長沙南駅

全長 927km（うち浙江省内 295km）

開通 2014年12月10日

浙江省杭州市から江西省を横切り湖南省長沙市まで結び、上海虹橋から長沙まで4時間半で行けるようになりました。

浙江省金華江に架かる金華江特大橋は当時難度の高い施工技術を用い、2016-2017年中国建設工程魯班賞（中国建設工事最高栄誉賞）を受賞しました。



駐在生活から見える「季節の色“カラー”」

皆さんこんにちは。静岡県上海事務所長の石川と申します。
6月に上海へ赴任しまして、現地業務をスタートさせました。
季節の色をテーマに「中国の今」をお届けします。



静岡国際経済上海事務所
石川祐介所長

上海の街角に色づく黄金色

中国では「中秋節・国慶節」の連休を迎え、日頃お世話になっている方々から月餅を頂きました。満月を模した黄金色の月餅は、日本では通年で購入できますが、中国では「この時期ならではの贈答品」です。日本では中華餡が入っているものが定番ですが、現地では様々な味わいを楽しむことができます。上海では、「黄身の塩漬けが入った蛋黄酥」や「豚肉が入った鲜肉月餅」も人気がありますし、スターバックスやハーゲンダッツなどでもオリジナル月餅を販売して、祝祭感が高まります。

この連休が終わるとようやく暑さも和らぎ、街中をジョギングする人も増えてきます。友好提携先の浙江省では杭州アジア大会(9/23~10/8)が開催され、ホスト国の中国は201個の金メダルラッシュで存在感を示しました。現地が多く選手団・観客で賑わう中、静岡県は出野副知事を団長とする県行政訪問団を派遣し、昨年度にオンラインで開催した友好提携40周年記念式典以降の対面交流をスタートさせました。

今回の訪問団は、初めて中国を訪問する方、十数年ぶりに中国を訪問する方も参加されました。福島原発処理水の影響で両国関係が不安定になる中、現地の情勢に不安を感じていたようですが、各訪問先で旧友に対する温かいもてなしを受け、上海・杭州の洗練された街並みやキャッシュレスなど生活様式の変化を肌で感じて「渡航前と180度イメージが変わった」とのこと。別の参加者も「コロナ禍にやむをえずオンラインで交流を続けてきたが、やはり対面交流に勝るものはない」との声も印象的でした。

9月24日には待望の「静岡-上海路線」が復便しました。上海から静岡への初便に搭乗した中国人旅行者は、雄大な富士山、黄金色に輝く駿河湾が素晴らしかったと笑顔で話していました。

上海の街角も、まもなく銀杏が黄金色に色づき、1年で最も美しい季節を迎えます。現在、日本から中国への渡航はビザを取得する必要がありますが、一方で旅行者も少なく、これまで以上に「中国らしさ」を感じられる貴重な時期でもあります。是非、富士山静岡空港から上海へ足を運んでみませんか？





花を巡る旅情



温州の椿（つばき）

椿は中国十大伝統名花の一つで、中国ではこよなく愛されている花です。冬から春に咲く大きな花、葉が常緑で花期が長く、人々は不変・不老長寿の意味合いを椿に寄せ、縁起のいい花としてきました。



椿は温州市の花です。そのうち温州市は華東地域の椿発祥の地の一つ、とされています。温州には、樹齢1200年にもなる椿の樹があり、一度枯れかけながらも2011年からの保護活動により現在は毎年11月から4月に大紅花を咲かせています。

椿は種類も多く、色も目の覚めるような紅色や清い純白、美しい紅白模様とさまざまに楽しめます。

日本では、花が首ごと落ちるから縁起がわるい、という俗説がありますが、どうも明治時代に作られ広まったもののようです。隋・唐時代より椿の栽培が始まり、盛唐期に温州椿は日本に伝来しました。清代末に日本留学より帰郷した王敬敷が挿し木による椿の繁殖を始めました。

椿の花を詠む

白茶記異品，天曹玉玲瓏。
不作燒灯焰，深明韞櫝功。
易容非世力，幻質本春工。
皓皓知難汚，塵飛漫自紅。

白椿は稀有な品で天宮の玉のようだ。

灯りをともさずとも宝箱の中に深くたたずんでいる。

世俗の力ではなく、春がその美しい花の色を与える。

白椿は潔白で穢れず、紅椿は塵の中でもその紅を保つ。



許及之（1141-1209）

字深甫、温州永嘉人。南宋温州文人の中で現存する詩が最も多い詩人の1人。北方の金国への赴任を経て知枢密院事兼参知政事（副宰相）までになるが、時の権臣韓侂胄が殺された後、許及之も官位を下げられた。晩年、温州人を中心とした永嘉詩社を結成し、仲間とともに多くの詩を残している。

三国志の英雄達

孫権と龍門古鎮

ゆかいの地



孫権（182年—252年）、字は仲謀、現在の浙江省杭州市富陽区出身。191年、父孫堅が黄祖の部下に殺害された後、兄の孫策に随従し、200年には孫策の遺命を受け家督を継ぎます。208年には自ら軍を指揮し黄祖を討ち取ります。208年、劉備と連合して曹操軍と戦った赤壁の戦い、その後荊州に留まっていた関羽を打ち、東呉の勢力範囲を確実にしていきます。71歳で亡くなると「大皇帝」の諡が与えられました。ユーモアがあり、聡明で深謀遠慮であったという反面、疑い深く容赦なく殺戮を行う性格、との評価もあり、さすが呉国を成した人物だったということでしょうか。

龍門古鎮は杭州市富陽区、杭州市街から南西へ50kmほど離れたところにあります。富春江の南岸の四方を山に囲まれた山紫水明な所で、東漢の名士である嚴子陵がこの場所を訪れた際に「呂梁（山西省）の龍門に似ている」と話したことから龍門鎮と名付けられたそうです。龍門古鎮の人口はおよそ7000人、そのうち90%孫姓が占める、孫権末裔の最大の居留地です。孫権から数えて27代目の孫忠が西暦980年にここに移り住んだのが始まりのようですが、現在多くの家の門扉の上には「富春孫氏呉大帝の第何代の某」とあり、孫家への誇りが感じられます。



龍門古鎮は龍門孫氏の靈廟を中心に、明清時代から残る家屋、御堂、祠がびっしりと集まっています。玉石を敷き詰めた道は細く複雑に伸びています。玉石は広場にも壁にも使われており、両側にそびえたつ壁は歩く人の方向感覚を麻痺させる迷宮のようなところです。その独特な雰囲気により、『富春山居図』や『理髮師』といった中国映画のロケ撮影に使われました。



龍門古鎮に入ってしばらくしたところにある「思源堂」は孫権の祖父孫鐘が祀られています。ここは名が示すように「源（先祖）を思う御堂」で、孫氏の家系図が掲げられて、春秋時代に活躍した兵法書『孫氏』の作者とされる孫武や、あの辛亥革命で有名な孫文などの名前があり、孫氏の偉大さと誇りを知ることができます。

『龍門孫氏宋譜』によると、龍門孫氏には清廉潔白、勤勉有為と知られる孫坤や孫濡をはじめ80名余りの科挙合格者を輩出しています。孫権が果たしてどのような人物だったのか、その末裔が代言しているのかもしれませんが。

発行所：静岡県日中友好協議会
発行人：増井浩二

静岡市葵区追手町44-1（静岡県産業経済会館1F）
TEL (054) 255-8111